

第 4 回 HOPE ミーティング (JSPS 主催) を終えて

大学院理工学研究科 応用化学専攻 鈴木(寛)・高尾研究室

3月6日～11日につくば市にて開催された第4回HOPEミーティングに参加してきました。本会議は大勢のノーベル賞受賞者及びアジア・太平洋地域で研究に勤しむ若手研究員が一堂に介し、講演やディスカッションを通じて科学的・国際的交流を図るというものです。ドイツで開催されるリンダウ会議を想像して頂ければイメージしやすいかと思われます。昨年は物理分野でしたが本年度は化学分野での開催で、総勢100人以上の化学者が集まりました。また会議中の交流は全て英語で行われました。東工大からは今回が初めてとのことですが、非常に充実した一週間となりました。

本会議は主に午前中に①ノーベル賞受賞者による講演会、午後に②グループディスカッション(ノーベル賞受賞者を囲んでの質疑応答会)、夕方～夜に③ポスターセッション等その他のイベントといったスケジュールで日程が進行しました(添付資料参考)。①ノーベル賞受賞者による講演会では、言うまでもなくとても素晴らしいお話が聞けました。どの教授も穏やかな方ばかりで、研究の話のみならず、ノーベル賞に繋がる研究を発見した瞬間や、自身が若手研究者だった頃の苦労話、今の若手研究者に向けてのメッセージ等を、色々なジョークを交えながら面白おかしく講演して下さいました。個人的に印象的だったのは2011年に準結晶に関する研究でノーベル化学賞を受賞したShechtman教授による講演で、初めて固体とも結晶とも違う性質を持つ物質の存在が見つかり、それを準結晶と定義して論文に投稿した際に、最初は全く認められず受理されなかったとのことでした。そこで常識に囚われることなく、自身と実験事実を信じ続け新発見に繋がったという話は、一化学者として非常に心に響くものがありました。



Shechtman 教授による講演

午後に開催された ②グループディスカッションというセッションでは、若手研究者がノーベル賞受賞者を囲んで次々に質問を行い、それに対し答えを頂くという時間を過ごしました。一方的に行われる講演とは異なり(勿論講演にも質疑の時間は少しありましたが)、専門的な話、抽象的な話を問わず非常に近い距離で交流ができ、濃密な時間を過ごすことができました。私は 2 日目に参加した Mackinnon 教授とのディスカッションが忘れられません。彼はイオンチャンネルに関する研究で 2003 年にノーベル化学賞を受賞しましたが、生化学の分野であるため、有機金属化学の分野である私はあまり研究に関して詳細を把握しておりませんでした。しかし彼の講演は非常に分かりやすく、そして彼の研究を私の研究分野に応用することができるもっと面白い発見があるのではないかと考えました。グループディスカッションにてそれを尋ねると彼は研究に関するコメントと共に「その発想はなかった。是非トライしてみてください。きっと化学の新しい分野を作るに違いない。」と優しく答えてくれました。ディスカッション終了時に写真を撮った際にも賞賛を頂き、大変貴重な経験となりました。



Group Discussion 後の Mackinnon 先生と共に

初日と 2 日目の夕方には③ポスターセッションがあり、多くの人の発表を聞き、また多くの人が私の発表を訪ねてくれました。本会議は化学分野の人が集まっているとはいえ、有機化学、無機化学、生化学、分析化学と、更に細かい分類で言うと様々な分野の人が参加しておりました。普段の学会では同一分野の人との議論しか経験しないため、分野の違う人の研究を聞くこと、また分野に違う人に自分の研究を説明することは、良い経験となりました。メンターの一人である京都大学の Gerle 先生は私の研究に対し、生化学の観点からアドバイスを下さり参考にするに良い論文などを教えて頂きました。私事ではありますが、発表者の中から 5 人選出される“the best poster presentation award”を受賞することができ、大変誇りに思います。



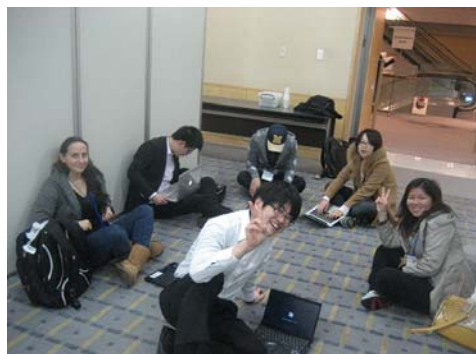
Best Poster Presentation Award 授賞式



Team L の皆と共に

これらの経験に加え、私は国際交流という観点でも非常に多くの経験をしました。本会議では上記プログラムとは別に参加者がチーム分けされており、最終日の team presentation にて、各

チーム与えられた発表時間を用いて自由にプレゼンテーションするという課題がありました。テーマ、発表スタイル、全てが自由であるため、それらを形作るために夕食後にチームで毎日ディスカッションを行いました。私は L チームに所属し、『Chemical Dream』というテーマの元に、各々の研究を語るという形のプレゼンテーションを行いました。しかし初日の話し合いではテーマや方針がうまくまとまらず、非常に苦労しました。また語学の面でも学ぶところは多々ありました。本会議参加前に HOPE ミーティング HP の掲示板にてテーマに関する話し合いが行われましたが、掲示板では英語を見て、しばらく考えて、自分の意見をまとめ、そして英文を作成し投稿するという行為ができたのに対し、本会議中のディスカッションではそれらを全て現場で瞬時に行う必要があり、苦戦を強いられました。1対1で会話しているときは聞き返すことができるのですが、グループで話しているときに一瞬でもフォローできないとその後の議論に一切ついていけず、急に意見を求められても理解していない、あるいは議論がフォローできていても言いたいことを即座に英語で話せない、など、英語で議論することの難しさと、自らの語学力のなさを痛感しました。しかしながら自分なりにその中で英語でのディスカッションというものを必死に学び、発表前日に資料が完成したときの喜びは本当に大きなものでした。皆明るく楽しい人ばかりで、良いチームに恵まれたとメンバー全員に感謝しています。発表会当日には、各チームが趣向を凝らしたプレゼンテーションを行い、非常に楽しい時間を過ごせました。



L チームの話し合いの一コマ

本会議中ではこの他に、理研やエーザイ株式会社の施設見学を行いました。最先端の研究設備を見ることができ、私を含め多くの方が感動しておりました。また世界中から来た研究者に日本の文化を学んでもらう為に、4 日目に書道・着物といった文化を体験できる Cultural Program を、最終日に浅草や江戸資料館を訪れる Excursion を、それぞれ過ごしました。いずれも大喜びで、世界の方々に日本の文化を知ってもらおうととても良い機会だったと思います。皮肉なことではありますが、海外の方と交流すればするほど、我々日本人は「日本」についてもっと知らねばならないという気持ちになります。皆さん研究者ということもあって、あらゆる日本文化に対して興味津々なのですが、尋ねられて「そういえば知らないな…」と思う場面も幾つかありました。私は十三代続く萩焼の窯元に生まれました。これまで参加した国際学会にて父の作品を海外の先生方へ土産として差し上げたり解説をしたりすると、皆熱心に聞いてくれます。アジア間での国際的結びつきを高めるためには、化学などの学術的な繋がりとは勿論のこと、文化面での相互理解なども非常に重要な役割を果たすものと本会議で再認識致しました。

以上が本会議に関する報告となります。いずれも本会議でしか体験できない、貴重な時間を過ごすことができました。今回学んだ経験を活かし、今後の人生に反映させていきたいと思います。最後になりましたが、応募の際に種々手続き等でご面倒をいただきました東京工業大学留学生交流課の吉原様をはじめとした皆様に厚く御礼を申し上げます。



浅草での L チーム



浅草での一コマ